

分野（２）

気管支ぜん息患者の年齢階層毎の長期経過・予後を踏まえた健康相談・健康診査・機能訓練事業の
事業内容の改善方法に関する調査研究

研 究 課 題 名： 気管支ぜん息患者の年齢階層毎の長期経過・予後を踏まえた健康相談・
健康診査・機能訓練事業の事業内容の改善方法に関する調査研究

調査研究代表者氏名： 秋 山 一 男

評価コメント

○このような研究は長期に亘って継続することに意義があると考ええる。

○小児喘息の長期追跡調査は予期された成果があがってきている。今後の登録例の脱落例をいかに少なくするかの工夫が必要であろう。成人の診療レセプトからの追跡調査も世界的にも類例のない性格の研究であり、今後の解析の方法論の厳密な検討を積んでの成果のまとめが期待できる。

○小児喘息及び、成人の喘息の登録に基づいて、コホート調査により、長期経過・予後を追跡する研究で、成果が期待できる。今年度は、まだ短期間の追跡であるが、小児喘息の1／3は6歳までに寛解するなどの貴重なデータが得られており、今後も順調に成果が出てくるものと期待される。

○小児期から成人期にいたる喘息の長期予後に関する研究であり、難治化要因を明らかにするために貴重な研究である。成人に関しては、健康保険組合のレセプトを資料としているので長期のフォローアップもかなり確実に実施できる可能性があるが、小児の場合は、登録例であるので、長期のフォローアップが困難になる可能性も高い。脱落例を極力避ける対策、努力も必要である。

○喘息の長期予後がどのようになるかは大変興味ある重要なテーマである。経過を追うのに長い年月を要する仕事なので、prospectiveなデータだけでなく、retrospectiveなデータも十分検討してとりいれてもよいのではなかろうか。一例一例を丹念に解析して信頼性のあるエビデンスを構築してほしい。

○報告を見ると非常に多くの副課題も同時並行で実施することになっている。本研究班の主題は「喘息の長期予後がどうなるか」ということである。主題をフォローするついでに、あれもこれもやっておこうという気持ちは良く分かるが、エネルギーと時間とコストが分散して、全体が散漫にならないように注意する必要がある。

○長期に亘る経過観察は貴重なものと評価する。小児については、回収率がさらに低下しないよう、特に主治医が変わった場合には連携でとるなど配慮してほしい。成人については、増悪に関係する屋外環境因子として、大気汚染状況を加えられないか検討してほしい。